

[平成19年度設置]

日本医療科学大学

設置に係る設置計画履行状況報告書

(実地・面接調査用資料)

学校法人 城西医療学園

平成 19 年 4 月 1 日 現在

作成担当者

担当部(課)名 事務局

役職・氏名 事務局長 ナリタ 成 マサキ 田 正 樹

電話番号 0 4 9 - 2 9 5 - 3 2 1 1

夜間 0 4 9 - 2 9 4 - 9 0 0 0

FAX 0 4 9 - 2 9 4 - 9 0 0 9

e-mail narita@nims.ac.jp

目 次

1 調査対象大学等の概要等	
(1) 設置者	1
(2) 大学名	1
(3) 大学本部の位置	1
(4) 管理運営組織	1
(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等	
(5)－① 調査対象学部等の名称, 定員	2
(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況	2～3
(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況	3～4
(5)－④ 調査対象学部等の退学者等の状況	5～7
2 授業科目の概要(保健医療学部)	
2-1 診療放射線学科	
(1) 授業科目表	1～4
(2) 授業科目数	4
(3) 未開講科目	4
(4) 廃止科目	4
(5) 授業科目を未開講または廃止としたことに係る 「大学の所見」及び「学生への周知方法」	4
(6) 「認可時の計画び授業科目数の計」に対する 「未開講科目と廃止科目の計」の割合	4
2-2 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	
(1) 授業科目表	5～8
(2) 授業科目数	8
(3) 未開講科目	8
(4) 廃止科目	8
(5) 授業科目を未開講または廃止としたことに係る 「大学の所見」及び「学生への周知方法」	9
(6) 「認可時の計画び授業科目数の計」に対する 「未開講科目と廃止科目の計」の割合	9

2-3	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	
(1)	授業科目表	10~12
(2)	授業科目数	13
(3)	未開講科目	13
(4)	廃止科目	13
(5)	授業科目を未開講または廃止としたことに係る 「大学の所見」及び「学生への周知方法」	13
(6)	「認可時の計画び授業科目数の計」に対する 「未開講科目と廃止科目の計」の割合	13
3	施設・設備の整備状況, 経費	1
4	既設大学等の状況	1
5	教員組織の状況(保健医療学部)	
5-1	診療放射線学科	
(1)	担当教員表	1~7
(2)	専任教員数	7
(3)	専任教員交代の理由	7
(4)	専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生 への周知方法」	7
5-2	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	
(1)	担当教員表	8~15
(2)	専任教員数	15
(3)	専任教員交代の理由	15
(4)	専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生 への周知方法」	15
5-3	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	
(1)	担当教員表	16~21
(2)	専任教員数	21
(3)	専任教員交代の理由	21
(4)	専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生 への周知方法」	21

6 留意事項に対する履行状況等	1
7 その他全般的事項(保健医療学部)	
7-1 診療放射線学科	
(1) 設置計画変更事項等	1~13
(2) 情報提供に関する事項	14
7-2 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	
(1) 設置計画変更事項等	15~27
(2) 情報提供に関する事項	28
7-3 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	
(1) 設置計画変更事項等	29~41
(2) 情報提供に関する事項	42

大学等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人城西医療学園

(2) 大学名

日本医療科学大学

(3) 大学本部の位置

埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長	シンドウ ノリオ 新藤 宣夫 (平成18年12月)		
学 長	サトウ ヤスマサ 佐藤 泰正 (平成19年4月)		
学 部 長	カネコ カツヂ 金子 勝治 (平成19年4月)		
診療放射線 学科長	ナカヤ ギイチロウ 中谷 儀一郎 (平成19年4月)		
リハビリテーション 学科長	ヤナギサワ ケン 柳澤 健 (平成21年10月)		

(5) 調査対象学部等の名称,定員,入学者の状況等

(5)－① 調査対象学部等の名称,定員

調査対象学部等の 名称(学位)	認可時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	
保健医療学部 診療放射線学科 学士(診療放射線学)	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	
保健医療学部 リハビリテーション学科 学士(理学療法学専攻)	4	80	—	320	
保健医療学部 リハビリテーション学科 学士(作業療法学専攻)	4	40	—	160	

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

< 保健医療学部 診療放射線学科 >

報告年度 区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員	80 人	() 人	() 人	() 人	1.10 倍	
志願者数	184	()	()	()		
受験者数	182	()	()	()		
合格者数	145	()	()	()		
B 入学者数	88	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.10	()	()	()		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

報告年度 区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員	80 人	() 人	() 人	() 人	1.29 倍	
志願者数	649	()	()	()		
受験者数	629	()	()	()		
合格者数	165	()	()	()		
B 入学者数	103	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.29	()	()	()		

＜ 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 ＞

区分	報告年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員		40 人	() 人	() 人	() 人	1.30 倍	
志願者数		128	()	()	()		
受験者数		122	()	()	()		
合格者数		74	()	()	()		
B 入学者数		52	()	()	()		
入学定員超過率 B/A		1.30	()	()	()		

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

＜ 保健医療学部 診療放射線学科 ＞

学年	報告年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次		[-] 88	[]	[]	[]	
2年次			[]	[]	[]	
3年次				[]	[]	
4年次					[]	
計		[-] 88	[]	[]	[]	

＜ 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 ＞

学年	報告年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次		[-] 103	[]	[]	[]	
2年次			[]	[]	[]	
3年次				[]	[]	
4年次					[]	
計		[-] 103	[]	[]	[]	

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

<保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻>

報告年度 学 年	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次	[-] 52	[]	[]	[]	
2年次		[]	[]	[]	
3年次			[]	[]	
4年次				[]	
計	[-] 52	[]	[]	[]	

(5)－④ 調査対象学部等の退学者等の状況

< 保健医療学部 診療放射線学科 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

(5) 調査対象学部等の名称,定員,入学者の状況等

(5)－① 調査対象学部等の名称,定員

調査対象学部等の 名称(学位)	認可時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	
保健医療学部 診療放射線学科 学士(診療放射線学)	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	
保健医療学部 リハビリテーション学科 学士(理学療法学専攻)	4	80	—	320	
保健医療学部 リハビリテーション学科 学士(作業療法学専攻)	4	40	—	160	

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

< 保健医療学部 診療放射線学科 >

報告年度 区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員	80 人	() 人	() 人	() 人	1.10 倍	
志願者数	184	()	()	()		
受験者数	182	()	()	()		
合格者数	145	()	()	()		
B 入学者数	88	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.10	()	()	()		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

報告年度 区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員	80 人	() 人	() 人	() 人	1.29 倍	
志願者数	649	()	()	()		
受験者数	629	()	()	()		
合格者数	165	()	()	()		
B 入学者数	103	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.29	()	()	()		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 >

報告年度 区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	40 人	() 人	() 人	() 人	1.30 倍	
志願者数	128	()	()	()		
受験者数	122	()	()	()		
合格者数	74	()	()	()		
B 入学者数	52	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.30	()	()	()		

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

< 保健医療学部 診療放射線学科 >

報告年度 学年	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次	[-] 88	[]	[]	[]	
2年次		[]	[]	[]	
3年次			[]	[]	
4年次				[]	
計	[-] 88	[]	[]	[]	

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

報告年度 学年	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次	[-] 103	[]	[]	[]	
2年次		[]	[]	[]	
3年次			[]	[]	
4年次				[]	
計	[-] 103	[]	[]	[]	

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

<保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻>

報告年度 学 年	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次	[-] 52	[]	[]	[]	
2年次		[]	[]	[]	
3年次			[]	[]	
4年次				[]	
計	[-] 52	[]	[]	[]	

(5)－④ 調査対象学部等の退学者等の状況

< 保健医療学部 診療放射線学科 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

< 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 >

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成20年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人
	(主な理由) [該当なし]		
平成21年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人
	(主な理由)		
平成22年度	[] 人	%	左記のうち、 平成19年度入学者 人 平成20年度入学者 人 平成21年度入学者 人
	(主な理由)		

2 授業科目の概要

<保健医療学部 診療放射線学科>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
哲学	1・2		2							
倫理学	1・2		2							
心理学	1	2								
教育学	1・2		2							
文学	1・2		2							
社会学	1・2		2							
歴史学	1・2		2							
国際関係論	1・2		2							
比較文化論	1・2		2							
法学	1・2		2							
経済学	1・2		2							
政治学	1・2		2							
人間関係論	1・2		2							
コミュニケーション論	1	2								
生物学	1	2								
物理学	1	2			1					
化学	1	2						1		
数学	1	2			1					
統計学	1・2		2		1					
環境科学	1・2		2							
情報科学	1・2		2		1					
人間と健康	1・2		2		1					
国際保健学	1・2		2		1					
健康とスポーツ	1・2		2							
文章表現演習	1・2		2							
速読法演習	1・2		2							
コンピューター I	1	1			1					
コンピューター II	1・2 未開講		1		1					履修希望者がいなかったため⑱
基礎ゼミ	1	2			4	1	2	1		
英語 I	1	2			1					
英語 II	1	2			1					
英語 III	2・3		2		1					
英語 IV	2・3		2		1					
スペイン語 I	1・2		2							
スペイン語 II	1・2		2							
中国語 I	1・2		2							
中国語 II	1・2		2							

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
解剖学	1	2								
生理学	1	1								
臨床心理学	2・3		2							
病理学	1	1								
生化学	2	1						1		
衛生学・公衆衛生学	1	1						1		
基礎医学総論	3	2			1					
基礎医学総論演習	3・4		1		1					
一般臨床医学	2	2								
内科学	1	1								
整形外科学	2	1								
神経内科学	2	1								
精神医学	2・3		1							
小児科学	2・3		1							
薬理学	2・3		1					1		
微生物学	2・3		1					1		
リハビリテーション概論	1	2								
チーム医療演習	1	1			2					
社会福祉学	2・3		2							
障害者・高齢者の福祉	2・3		2							
障害者・高齢者の心理	2・3		2							
救命救急医学	2・3		1							
看護学	2・3		1							
臨床検査論	2・3		1							
生命倫理学	2	1								
安全管理論	2	1								
医用電気工学	2	1			1					
医用電子工学	2	1								
医用工学実験	2	1			1		1			
医用工学演習	3・4		1							
放射線生物学	3	2			1					
放射線生物学演習	3・4		1		1					
医用物理学	1・2		1		1					
原子核物理学概論	2	1			1					
放射線物理学Ⅰ	2	1			1					
放射線物理学Ⅱ	3	1			1					
放射線物理学演習	3・4		1		1					
医用数学	2・3		1		1					
放射化学	2	2						1		
放射化学演習	3・4		1					1		
放射線計測学	2	1					1			
医用放射線計測学	3	2								
放射線計測学演習	3・4		1							
基礎科学実験	1	1			1		1	1	1	
放射線計測学実験	3	1			1		1		1	

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
ペイシエントケア論	1	1			1					
放射線ケアマネジメント論	3		1		1					
放射線科学におけるQA・QC論	3		1			1				
放射線科学系英文講読Ⅰ	2・3		1		1					
放射線科学系英文講読Ⅱ	2・3		1		1					
放射線医学概論	3	1			1					
画像検査技術学概論	1	2			1					
X線画像検査技術学Ⅰ	1	1			1					
X線画像検査技術学Ⅱ	2	1					1			
核磁気共鳴画像検査技術学	2	1					1			
超音波画像検査技術学	3	1			1					
X線画像検査技術学演習	3・4		1			1				
診療画像検査技術学演習	3・4		1				1			
X線画像解剖学	2	1				1				
診療画像解剖学	3	1					1			
画像解剖学演習	3・4		1		1					
X線画像診断学	3	1			1					
診療画像診断学	3	1			1					
画像機器工学概論	1	2			1					
X線画像機器工学	2	1			1					
診療画像機器工学	3	1				1				
画像機器工学実験	2	1			1		1		1	
医療福祉工学	3・4		1		1					
画像機器工学演習	3・4		1				1			
核医学検査技術学概論	2	2					1			
核医学検査技術学	3	1					1			
インビトロ・PET検査技術学	3	1					1			
放射性医薬品学	3・4		1					1		
核医学検査技術学演習	3・4		1			1				
核医学機器工学	3	2			1					
放射線治療技術学概論	2	2			1					
放射線腫瘍学	3	1			1					
放射線治療技術学	3	1			1					
放射線治療技術学演習	3・4		1		1					
放射線治療機器工学	3	2			1					
粒子線治療学	3・4		1		1					
医用画像写真学	1	2						1		
医用画像情報学	2	2				1				
医用画像情報学演習	3・4		1			1				
医用画像工学	3	1			1					
医用画像工学演習	3・4		1		1					
医用画像情報学実験	3	1			2	1		1	1	

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
放射線安全管理学概論	2	2			1					
放射線関係法規Ⅰ (医療法関係)	2	1			1					
放射線関係法規Ⅱ (障防法関係)	3・4		1		1					
放射線安全管理学	3	1			1					
放射線安全管理学演習	3・4		1		1					
放射線安全管理学実験	3	1			1		1		1	
基礎画像検査技術学実習	2	1			1		1		1	
画像検査技術学実習Ⅰ	3	1				1	1		1	
画像検査技術学実習Ⅱ (臨床実習)	4	4			5	1	2	1	2	
核医学検査技術学実習 (臨床実習)	4	2			5	1	2	1	2	
放射線治療技術学実習 (臨床実習)	4	2			5	1	2	1	2	
診療放射線学総合演習	4	2			1	1				
診療放射線学特講	3・4		1		1					
卒業研究	4	4			6	1	2	1		

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
74	64	0	138	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	コンピューターⅡ	1	1・2	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由,代替措置の有無
1	[該当なし]				

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コンピューターⅡの履修希望者がいなかったため19年度は未開講としたが、20年度に計画通り開講を予定している。学生には全学生必修科目の基礎ゼミの中での説明するとともに、学内掲示した。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の合計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{1}{138} = 0.00$$

<保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
哲学	1・2		2							
倫理学	1・2		2							
心理学	1	2								
教育学	1・2		2							
文学	1・2		2							
社会学	1・2		2							
歴史学	1・2		2							
国際関係論	1・2		2							
比較文化論	1・2		2							
法学	1・2		2							
経済学	1・2		2							
政治学	1・2		2							
人間関係論	1・2		2							
コミュニケーション論	1	2								
生物学	1	2								
物理学	1	2								
化学	1・2		2							
数学	1・2		2							
統計学	1	2								
環境科学	1・2		2							
情報科学	1・2		2							
人間と健康	1・2		2							
国際保健学	2・3		2							
健康とスポーツ	1・2		2							
文章表現演習	1・2		2							
速読法演習	1・2		2							
コンピューター I	1	1								
コンピューター II	未開講 1・2		1							履修希望者がいなかったため⑩
基礎ゼミ	1	2			2 3	2	4 3			担当者の変更⑩
英語 I	1	2			1					
英語 II	1	2			1					
英語 III	2・3		2		1					
英語 IV	2・3		2		1					
スペイン語 I	1・2		2							
スペイン語 II	1・2		2							
中国語 I	1・2		2							
中国語 II	1・2		2							

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
解剖学	1	2			1					
解剖学実習	1	1			1					
応用解剖学	2		1		1					
生理学	1	2			1					
生理学実習	1	1			1					
応用生理学	2		1				1			
運動学	2	2				1	1			
運動学実習	2	1				1	1			
臨床運動学	2		1		+	1	1			教育課程の充実を図るため教員を追加⑱
臨床心理学	2	2								
人間発達学	2	2								
病理学	2	1								
衛生学・公衆衛生学	1	1								
一般臨床医学	3	2								
内科学	2	2								
整形外科	2	2								
神経内科学	2	2								
精神医学	2	2								
小児科学	2	1								
薬理学	3		1							
微生物学	2・3		1							
リハビリテーション概論	1	1								
チーム医療演習	1	1			1					
リハビリテーション医学	2	1								
社会福祉学	2・3		2							
障害者・高齢者の福祉	2	1								
障害者・高齢者の心理	2	1								
作業療法学概論	3	1								
言語聴覚学概論	3	1								
医療放射線学概論	3	1								
スポーツ傷害学	3		1							
救命救急医学	3		1							
栄養学	2・3		1							
看護学	2・3		1							
臨床検査論	2・3		1							
生命倫理学	2	1								
安全管理論	2	1								
理学療法学概論	1	1			1					

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備 考	
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎理学療法学	1	1			1		1				教育課程の充実を図るため教員を追加⑱
基礎理学療法学実習	3	1			-1		1				
理学療法学見学実習	1	1			4 -5	2	4 -3		2		担当者の変更⑱
理学療法学見学実習セミナー	1		1		4 -5	2	4 -3		2		担当者の変更⑱
理学療法学研究法	3	2				1					
理学療法学系英文講読Ⅰ	1・2		1								
理学療法学系英文講読Ⅱ	2・3		1								
機能・能力診断学臨床 実習セミナー	2		1		4 -5	2	4 -3		2		担当者の変更⑱
総合臨床実習Ⅰセミナー	3	1			5	2	3		2		
総合臨床実習Ⅱセミナー	4	1			5	2	3		2		
機能・能力診断学	2	2			1						
機能・能力診断学実習Ⅰ	2	1			1		1				
機能・能力診断学実習Ⅱ	2	1			1	1					
生体観察と触診法	2	1					1				
動作分析学	3		1				1				
運動療法学	2	2			1						
骨・関節系疾患理学療法学	2	1			2 +		1				教育課程の充実を図るため教員を追加⑱ 担当者の変更⑱
骨・関節系疾患理学療法学実習	2	1					1				
成人中枢神経系疾患理学療法学	2	1			1						
成人中枢神経系疾患理学療法学実習	2	1			1						
小児中枢神経系疾患理学療法学	3	1			1						
小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3	1			1						
呼吸・循環器系疾患理学療法学	3	1				1					
呼吸・循環器系疾患理学療法学実習	3	1				1					

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
物理療法学	2	1				1				
物理療法学実習	2	1				1	1			
日常生活活動理学療法学	2	1					1			
日常生活活動理学療法学実習	3	1					1			
義肢装具学	3	1			1					
義肢装具学実習	3	1			1					
スポーツ理学療法学	3	2			1					
特殊テクニック論	3	2			1					
統合理学療法学演習	4		2		1					
地域理学療法学	3	2					1			
地域理学療法学演習	3		1				1			
生活支援系理学療法学	3	2					1			
生活支援系理学療法学演習	3		1				1			
機能・能力診断学臨床実習	2	4			4 5	2	4 3		2	担当者の変更⑱
総合臨床実習Ⅰ	3	8			4 5	2	4 3		2	担当者の変更⑱
総合臨床実習Ⅱ	4	8			4 5	2	4 3		2	担当者の変更⑱
卒業研究	4	4			4 5	2	4 3		2	担当者の変更⑱

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
69	47	0	116	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	コンピューターⅡ	1	1・2	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由,代替措置の有無
1	[該当なし]				

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コンピューターⅡの履修希望者がいなかったため19年度は未開講としたが、20年度に計画通り開講を予定している。学生には全学生必修科目の基礎ゼミの中での説明するとともに、学内掲示した。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の合計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{1}{116} = 0.00$$

<保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
哲学	1・2		2							
倫理学	1・2		2							
心理学	1	2			1					
教育学	1・2		2							
文学	1・2		2							
社会学	1・2		2							
歴史学	1・2		2							
国際関係論	1・2		2							
比較文化論	1・2		2							
法学	1・2		2							
経済学	1・2		2							
政治学	1・2		2							
人間関係論	1・2		2		1					
コミュニケーション論	1	2			1					
生物学	1	2								
物理学	1	2								
化学	1・2		2							
数学	1・2		2							
統計学	1	2								
環境科学	1・2		2							
情報科学	1・2		2		1					
人間と健康	1・2		2							
国際保健学	1・2		2							
健康とスポーツ	1・2		2							
文章表現演習	1・2		2				1			
速読法演習	1・2		2		1					
コンピューター I	1	1								
コンピューター II	未開講 1・2		1							履修希望者がいなかったため⑱
基礎ゼミ	1	2			2		2			
英語 I	1	2								
英語 II	1	2								
英語 III	2・3		2							
英語 IV	2・3		2							
スペイン語 I	1・2		2							
スペイン語 II	1・2		2							
中国語 I	1・2		2							
中国語 II	1・2		2							

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
解剖学	1	2								
解剖学実習	1	1								
応用解剖学	2・3		1							
生理学	1	2								
生理学実習	1	1								
応用生理学	2・3		1							
運動学	2	2								
運動学実習	2	1								
臨床運動学	2・3		1							
臨床心理学	2	2			1					
人間発達学	2	2								
病理学	2	1								
衛生学・公衆衛生学	1	1								
一般臨床医学	3	2								
内科学	2	2			1					
整形外科	2	2								
神経内科学	2	2								
精神医学	2	2			1					
小児科学	2	1								
薬理学	2・3		1							
微生物学	2・3		1							
リハビリテーション概論	1	1								
チーム医療演習	1	1			1					
リハビリテーション医学	2	1								
社会福祉学	2・3		2							
障害者・高齢者の福祉	2	1					1			
障害者・高齢者の心理	2	1					1			
理学療法学概論	2	1								
言語聴覚学概論	2	1								
医療放射線学概論	2	1								
スポーツ傷害学	2・3		1							
救命救急医学	2・3		1							
栄養学	2・3		1							
看護学	2・3		1							
臨床検査論	2・3		1							
生命倫理学	2	1								
安全管理論	2	1			1					
作業療法学概論	1	2			1					
基礎作業学	2	1					1			
基礎作業学実習	2・3		1				1			
生活支援環境学	2・3		1		1					
作業療法学見学実習	1	1			3		3			
作業療法学見学実習セミナー	1	1			3		3			
作業療法学研究法	3	2			1					
作業療法学系英文講読Ⅰ	1・2		1							
作業療法学系英文講読Ⅱ	1・2		1							
作業療法学総合臨床 実習Ⅰセミナー	3	1			3		3			
作業療法学総合臨床 実習Ⅱセミナー	4	1			3		3			

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配達					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
作業療法評価学Ⅰ	2	1					1			
作業療法評価学Ⅱ	2	1			1					
作業療法評価学演習Ⅰ	2	1					1			
作業療法評価学演習Ⅱ	2	1			1					
作業療法評価学演習Ⅲ	3	1					1			
作業療法評価学臨床実習セミナー	2		1		3		3			
身体障害作業療法学	3	1					1			
身体障害作業療法学演習Ⅰ	3	1					1			
身体障害作業療法学演習Ⅱ	3	1					1			
精神障害作業療法学	3	1			1					
精神障害作業療法学演習	3	1			1					
老年期障害作業療法学	3	1			1					
老年期障害作業療法学演習	3	1			1					
発達障害作業療法学	3	1								
発達障害作業療法学演習	3	1								
作業療法技術演習	4		1							
高次神経障害作業療法学	3	1					1			
高次神経障害作業療法学演習	3	1					1			
日常生活活動学	2	1			1					
日常生活活動学演習Ⅰ	3	1					1			
日常生活活動学演習Ⅱ	3	1					1			
義肢・装具学	3	1			1					
義肢・装具学演習	3	1					1			
生活支援機器学	3	1			1					
生活支援機器学演習	3	1			1				1	
作業療法学特論	3	4			1					
統合作業療法学演習	4		2		3		3			
地域作業療法学	3	2			1					
地域作業療法学演習	3	2			1					
作業療法評価学臨床実習	2	4			3		3			
作業療法学総合臨床実習Ⅰ	3	8			3		3			
作業療法学総合臨床実習Ⅱ	4	8			3		3			
卒業研究	4	4			3		3			

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
71	47	0	118	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	コンピューターⅡ	1	1・2	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由,代替措置の有無
1	[該当なし]				

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コンピューターⅡの履修希望者がいなかったため19年度は未開講としたが、20年度に計画通り開講を予定している。学生には全学生必修科目の基礎ゼミの中での説明するとともに、学内掲示した。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の合計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{1}{118} = 0.00$$

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考		
(1)校地等	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	m ² 16,926, ³⁵	m ² -	m ² -	m ² 16,926, ³⁵				
(2)校舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	m ² 10,068, ⁷³ (10,068, ⁷³ m ²)	m ² - (- m ²)	m ² - (- m ²)	m ² 10,068, ⁷³ (10,068, ⁷³ m ²)				
(3)教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	24 室	5 室	21 室	1 室 (補助職員 0 人)	- 室 (補助職員 - 人)			
(4)専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	保健医療学部			36 室				
(5)図書・設備	新設学部 の名称	図 書 [うち外国書] 冊	芸術雑誌 [うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]	視聴覚資料 点	機具・器具 点	標 本 点	
	保健医療 学部	11,000 [700] (8,500 [400])	35 [5] (30 [3])	- [] (-[])	10 (10)	1,800 (1,800)	70 (70)	
	計	11,000 [700] (8,500 [400])	35 [5] (30 [3])	- [] (-[])	10 (10)	1,800 (1,800)	70 (70)	
(6)図書館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
	231 m ²		100	17,000				
(7)体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	- m ²		フットサルコート 1面	バスケットボールコート 1面 テニスコート 1面 バレーボールコート 1面				
(8)経費の 見積り及び 維持方法の 概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
	教員1人当り 研究費等		400 千円	400 千円	図書購入費	10,000 千円	5,000 千円	2,000 千円
	共同研修費等		1,000 千円	2,000 千円	設備購入費	100,000 千円	10,000 千円	10,000 千円
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
			2,000 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	- 千円	- 千円
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入等					

学生の要望に
合わせるため^⑱

4 既設大学等の状況

大学の名称	日本医療科学大学								備考
既設学部等の名称	修業 年数	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
[該当なし]									

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成19年4月1日)	・設置の趣旨・目的などが活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるよう努めること。⑱	・留意事項について学内で十分に検討した上で4月から設置の趣旨・目的などが、活かされるようシラバスに反映させるなど設置計画を確実に履行するよう努めている。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるように、各種委員会を立ち上げるなど検討・努力している。特に教員の資質の維持・向上の方策についてFD委員会を設け、学生による各教員の授業アンケートを実施するなど、FD活動を履行している。⑱	
設置計画履行状況 調 査 時 (年 月 日)	[該当なし]		

7 その他全般的事項

<保健医療学部 診療放射線学科>

(1) 設置計画変更事項等

①設置の趣旨及び必要性

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>教育上の理念、目的 本学は次の4つに集約される教育理念を掲げる。</p> <p>①人間性 人間の生命を尊重し、相互に助け合い、思いやりの精神をもち、かつ個人として自立できる人材の育成を目指す。</p> <p>②問題解決性 知識や技術を身につけるだけでなく、常に問題解決に向けて意欲的に取り組む人材を育成する。</p> <p>③社会性 発展する社会の一員としての自覚を高め、社会科学に関する教養を身につけた人材を育成する。そして、社会に開かれた大学を目指し、地域社会はもとより、我が国、さらに国際社会に開かれたものとする。</p> <p>④未来性 未来がどのように展開されるかを常に念頭に置き、近未来課題を研究し、未来に向かって必要とされる人材を育成する。</p>	<p>○教育上の理念、目的を以下の資料により明示し、計画通り履行。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料① 見開き参照) ホームページ(http://www.nims.ac.jp/) 学校説明会、オープンキャンパス、各種進路説明会などにおいて、説明を積極的に行った。特に本学への入学希望者に対しては①～④の教育理念に関してよく説明を行った。</p>

②教育課程の編成の考え方及び特色

認可時の計画	履行状況
<p>(a)教育課程編成の考え方</p> <p>理念、目的に即して、</p> <p>①基礎教育科目(30単位以上)</p> <p>「哲学」「倫理学」「心理学」「教育学」「文学」「社会学」「歴史学」「国際関係論」「比較文化論」「法学」「経済学」「政治学」「人間関係論」「コミュニケーション論」「生物学」「物理学」「化学」「数学」「統計学」「環境科学」「情報科学」「人間と健康」「国際保健学」「健康とスポーツ」「文章表現演習」「速読法演習」「コンピュータⅠ」「コンピュータⅡ」「基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「スペイン語Ⅰ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」</p> <p>②専門教育科目・専門基礎科目(37単位以上)</p> <p>「解剖学」「生理学」「臨床心理学」「病理学」「生化学」「衛生学・公衆衛生学」「基礎医学総論」「基礎医学総論演習」「一般臨床医学」「内科学」「整形外科」「神経内科学」「精神医学」「小児科学」「薬理学」「微生物学」「リハビリテーション概論」「チーム医療演習」「社会福祉学」「障害者・高齢者の福祉」「障害者・高齢者の心理」「救急救命医学」「看護学」「臨床検査論」「生命倫理学」「安全管理論」「医用電気工学」「医用電子工学」「医用工学実験」「医用工学演習」「放射線生物学」「放射線生物学演習」「医用物理学」「原子核物理学概論」「放射線物理学Ⅰ」「放射線物理学Ⅱ」「放射線物理学演習」「応用数学」「放射化学」「放射化学演習」「放射線計測学」「医用放射線計測学」「放射線計測学演習」「基礎化学実験」「放射線計測学実験」</p> <p>③専門教育科目・専門科目(63単位上)</p> <p>「ペイシエントケア論」「放射線ケアマネジメント論」「放射線学におけるQA・QC論」「放射線科学系英文講読Ⅰ」「放射線科学系英文講読Ⅱ」「放射線医学概論」「画像検査技術学概論」「X線画像検査技術学Ⅰ」「X線画像検査技術学Ⅱ」「核磁気共鳴画像検査技術学」「超音波画像検査技術学」「X線画像検査技術学演習」「診療画像検査技術学演習」「X線画像解剖学」「診療画像解剖学」「画像解剖学演習」「X線画像診断学」「診療画像診断学」「画像機器工学概論」「X線画像機器工学」「診療画像機器工学」「画像機器工学実験」「医療福祉学」「画像機器工学演習」「核医学検査技術学概論」「核医学検査技術学」「インビトロ・PET検査技術学」「放射性医薬品学」「核医学検査技術学演習」「核医学機器工学」「放射線治療技術学概論」「放射線腫瘍学」「放射線治療技術学」「放射線治療技術学演習」「放射線治療機器工学」「粒子線治療学」</p>	<p>○設置認可申請書、授業科目の概要(様式2号)により履行している。(添付資料③)</p> <p>○留意事項について学内で十分に検討した上で4月から、設置の趣旨、目的などを反映させた学生便覧(添付資料④)、シラバス(添付資料⑤)を作成し履行している。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>「医用画像写真学」「医用画像情報学」 「医用画像情報学演習」「医用画像工学」 「医用画像工学演習」「医用画像情報学実験」 「放射線安全管理学概論」 「放射線関係法規Ⅰ（医療法関係）」 「放射線関係法規Ⅱ（障防法関係）」 「放射線安全管理学」「放射線安全管理学演習」 「放射線安全管理学実験」「基礎画像検査技術学実習」 「画像検査技術学実習Ⅰ」 「画像検査技術学実習Ⅱ（臨床実習）」 「核医学検査技術学実習（臨床実習）」 「放射線治療技術学実習（臨床実習）」 「診療放射線学総合演習」「診療放射線学特講」 「卒業研究」</p> <p>により、教育課程を体系的に編成する。</p> <p>(b)教育課程編成の特色</p> <p>教育課程の展開にあたり特に下記の点について重点的に取り組む。</p> <p>①人文科学系の授業を多数開設。 「医の倫理」について「生命倫理学」を必修とする。</p> <p>②社会科学系の科目を多数開設。</p> <p>③自然科学系の科目を多数開設。</p> <p>④情報の速読速解、情報の処理、情報の表現・発信等に関する科目を開設。 「コンピュータⅠ」を必修とする。</p> <p>⑤国際化に対応するため以下の科目を開設。 第一外国語を英語とし必修とする。 第二外国語を中国語（選択）、スペイン語とし、選択とする。 また、国際的教養・知識・感覚を身につけるため 「国際関係論」「比較文化論」「国際保健学」を開設。</p> <p>⑥講義・演習・ゼミを通して問題解決能力を養成。</p> <p>⑦専門的知識・能力及び臨床能力の養成を通じて、 専門家の育成をはかる。</p>	<p>○特色については学生便覧に詳細に記載、明示。 学生便覧（添付資料④P7～P10参照）</p> <p>○科目の内容についてはシラバスに記載、明示。 シラバス（添付資料⑤参照） 基礎教育科目（学科共通） P1～P40 診療放射線学科 専門基礎科目 P41～P49 診療放射線学科 専門科目 P50～P54</p> <p>但し、開学年度につき1年次のみ科目を示している。</p>

③履修指導の方法

認可時の計画	履行状況																					
<p>(a) 標準終了年限 学則 第3条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は8年を超えることができない。</p>	<p>○修業年限を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P1参照) 学生便覧(添付資料④P13、P58参照)</p>																					
<p>(b) 卒業要件 学則 第23条 学部学科を卒業するために、必要とされる最低単位数は、次の通りとする。 診療放射線学科</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">基礎教育科目</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 30%; text-align: right;">30単位</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td></td> <td style="text-align: right;">100単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎科目</td> <td style="text-align: center;">必修</td> <td style="text-align: right;">33単位</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技術専門科目</td> <td style="text-align: center;">必修</td> <td style="text-align: right;">52単位</td> </tr> <tr> <td>卒業研究</td> <td></td> <td style="text-align: right;">4単位</td> </tr> <tr> <td colspan="3"><u>この他に選択科目から11単位以上を履修する</u></td> </tr> <tr> <td>合計卒業要件単位数</td> <td></td> <td style="text-align: right;">130単位</td> </tr> </table>	基礎教育科目		30単位	専門教育科目		100単位	専門基礎科目	必修	33単位	診療放射線技術専門科目	必修	52単位	卒業研究		4単位	<u>この他に選択科目から11単位以上を履修する</u>			合計卒業要件単位数		130単位	<p>○卒業要件を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P4参照) 学生便覧(添付資料④P13、P14、P61参照)</p>
基礎教育科目		30単位																				
専門教育科目		100単位																				
専門基礎科目	必修	33単位																				
診療放射線技術専門科目	必修	52単位																				
卒業研究		4単位																				
<u>この他に選択科目から11単位以上を履修する</u>																						
合計卒業要件単位数		130単位																				
<p>(c) 進級要件、履修科目の登録の上限 進級要件、履修科目の登録の上限については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。 学則 第15条 基礎科目は、主として前期2ヶ年に、専門科目は4ヶ年に履修するものとする。 学則 第16条 基礎教育科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 学則 第17条 専門科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 2 他学科の専門科目は、許可を得て履修することができる。 学則 第18条 履修する授業科目は、毎学年所定の期間に登録しなければならない。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P13、P60参照) 必要な単位を修得した者には進級を認める。進級条件を満たさない場合は、留年となる。進級基準は別に定める。</p>																					

認可時の計画	履行状況
<p>(d) 成績評価法、基準</p> <p>成績評価法、基準については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。</p> <p>学則 第19条 単位の認定は、試験によって行う。ただし、授業科目の種類によっては、他の方法によることができる。</p> <p>学則 第20条 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学期末又は、学年末に行う。</p> <p>学則 第21条 いずれの授業科目も、授業時間の3分の1以上欠席した場合には、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による長期欠席の場合には、特に考慮されることがある。なお、この場合には、別に定める追試験を受けることができる。</p> <p>学則 第22条 各授業科目の試験の成績は、A, B, C, Dの評価で表し、A, B, Cを合格とし、Dを不合格とする。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P13、P35 P36、P37、P60、P61参照)</p>
<p>(e) 既修得単位の認定方法等</p> <p>既修得単位の認定方法等については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。</p> <p>学則 第13条 3 教育上有益と認められるときは、大学以外の教育施設等における学習について大学が単位を認定できる範囲を拡大し、単位を授与することが適切と認められる場合には、授与する単位数を定めることができる。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P13、P60参照)</p>

④各施設、学生の自習室等の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 講義・演習室</p> <p>校舎は、1～5期の5棟で合計10,068.73㎡となり、講義室24、実験・実習室21、演習室5、情報処理教室1、教材室14を配置する。</p> <p>ゼミやグループ単位での学習の場として、20人規模の演習室を5部屋配置する。</p> <p>5期校舎を新築し、一般教養課程用の講義室(40人収容×12室)、図書館(120席)及び食堂(180席)を配置する。</p> <p>各講義室にはプロジェクターを設置し、パワーポイント等を利用した授業展開を可能とする。</p>	<p>○計画に沿い順次整備を進めている。</p> <p>5期校舎は、平成19年2月に竣工した。</p> <p>5期校舎平面図(添付資料⑦参照)</p>
<p>(b) 自習室</p> <p>自習室に関しては、認可当初特に計画をしていなかったが、学生が自習可能なように現在計画を進めている。</p>	<p>○認可時の計画にはないが、マルチメディア教室などを自習室として使用する検討を行っている。また、5期校舎及び1期～4期校舎の教室を自習室として時間・利用方法を定めて、課外活動や予習・復習などに利用できるよう検討を行い、実施している。</p>
<p>(c) 図書(データベース等含む)</p> <p>5期校舎に231㎡の図書館を設け、学習、閲覧用に100席及びインターネット接続のPCテーブルを20席確保する。蔵書は各医療分野に亘る専門書を中心に11,000冊を収容し、デジタルデータベースの内容も充実させる。</p>	<p>○5期校舎に図書館を設け、計画に沿って履行している。</p> <p>5期校舎平面図(添付資料⑦参照)</p> <p>○図書館利用の手引きに基づき、学生に活用させている。</p> <p>学生便覧(添付資料④P55参照)</p> <p>図書館利用の手引き(添付資料⑧参照)</p>
<p>(d) 情報設備</p> <p>マルチメディア教室に、48台のパソコンと大小3つのスクリーンを設置し、情報科学、画像情報の場として活用する。</p>	<p>○マルチメディア教室を設け、マルチメディア教室利用の手引きに基づき、コンピュータウイルス、著作権、人権、個人情報などの問題に注意させながら、学生に活用させている。</p> <p>学生便覧(添付資料④P55参照)</p> <p>マルチメディア教室利用の手引き(添付資料⑨参照)</p>

⑤入学者選抜の概要

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 入学者選抜の概要</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業生、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 <p>3 選考方法とその人数</p> <p>(1)推薦入学……………募集人員の30% 「調査書」と「面接」および「小論文」</p> <p>(2)一般入試……………募集人員の70% 「学力試験」と「調査書」による総合判定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療放射線学科 学力試験(「数学」(必須) 「英語」・「物理」・「生物」・「化学」の中から一科目選択) 	<p>○2007年度入試を下記により実施した。</p> <p>推薦入試(25名) 「数学」「面接」 「小論文」に代わり「数学」を実施した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>一般入試(55名) 「数学」(必須) 「物理」「化学」「生物」より1科目選択 「面接」 選択科目で「英語」を除いた。 「面接」を課した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>推薦入学試験は調査書と面接及び小論文をおこなう予定であったが、小論文は受験生の学力を総合的に判断するものであるが、初年度においては小論文の代わりに、基礎学力試験の数学を実施した。</p> <p>しかし、今年度(2008年度)においては当初の計画通り実施予定である。</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩P5参照)</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(b) アドミッション・ポリシー</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業者、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 	<p>○大学案内・学生募集要項及びホームページ等に明示し、本学のアドミッション・ポリシーの徹底をはかっている。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料①参照)</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩ 見開き参照)</p> <p>2008年度大学案内(添付資料⑪ P1、P3参照)</p> <p>2008年度入試ガイド(添付資料⑫ 見開き参照)</p> <p>ホームページ(http://www.nims.ac.jp/)</p>
<p>(c) 社会人受け入れのための具体的方策</p> <p>特に計画はしていない。</p>	<p>○教育上の理念、目的を踏まえ検討を行っている。</p> <p>現行の入試制度において、社会人については、一般Ⅰ期・Ⅱ期での対応を考えている。なお、今後については、社会人の再教育も重要だと認識しており、昼夜一部開講制度の導入や社会人枠入試制度の検討を行っている。</p>

⑥自己点検・評価

認可時の計画	履行状況
<p>実施体制</p> <p>1 自己点検・評価に関して、学内に自己点検・評価委員会を置き、大学独自の自己点検・評価委員会を組織し、教育・研究体制、教育理念・目的、管理運営、学生生活、社会的役割・貢献度などについて、不断の点検を行う。</p> <p>(1)点検評価体制 委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進する。</p> <p>(2)評価結果の報告 点検結果は年次報告書として、学長及び教授会に提出する。学長は提出された年次報告書を理事会に報告するとともに、全教職員に配布する。また、ホームページによりその大綱を学外に公開する。</p> <p>(3)点検の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学設置の趣旨に基づく教育・研究の理念・目的の確認と不断の改善 ②教育・研究上の組織の点検と改善 ③教育課程の編成など、教育推進活動の現状と課題 ④教育方法の検討と改善 ⑤研究活動の状況と研究支援体制の改善 ⑥管理運営体制の点検と改善 ⑦施設・設備等の点検と改善 ⑧図書等の資料及び図書館の点検と改善 ⑨地域社会への貢献の現状及び改善 ⑩学生受け入れ ⑪学生生活への配慮の状況と改善 ⑫自己点検評価体制の現状と改善 <p>(4)自己点検・評価結果の利活用 自己点検・評価の結果が大学の将来の発展に向けた改善・改革になるための具体的な改善組織として、大学改善委員会、将来計画委員会を設置する。 自己点検評価の結果は教授会の議を経て、大学評議委員会、理事会に提案され、その審議を経て大学の教育・研究・経営の面の改善がなされるようにする。 大学基準協会の加盟を考えている。</p>	<p>○入学試験委員会、教務委員会、学生委員会、図書委員会、公開講座委員会、広報委員会等の委員会を設置(別紙参照)し、教育理念・目的に添って自己点検および改善を行っている。今後、大学の将来の発展に向け、自己点検評価委員会、大学改善委員会、将来計画委員会の設置を検討している。さらに、大学基準協会への加入を検討している。(平成22年度に私大協などの外部評価機関への加入を予定している。)</p> <p>別紙参照： 日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬)</p>

⑦情報提供

認可時の計画	履行状況
<p>○学内(学生・教職員向け) 実施方法 1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。 2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。 3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。 4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。 5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。 ○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。 ○紀要委員会を設置した。年度末の刊行を予定している。 ○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>
<p>○学外(受験生・地域社会向け) 実施方法 1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。 2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。 3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。 4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。 5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。 ○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。 ○紀要委員会を設置した。 ○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>

⑧教員の資質の維持向上の方策

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 実施体制</p> <p>学内に学長を委員長とするFD委員会を設置し、大学構成員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を目指し、各視点ごとに目標の達成の度合いを評価する。</p> <p>(1)教育指導能力の向上に関しては、教育内容、教育方法、教育効果の把握のためのFDを開催する。</p> <p>(2)研究能力の向上に関しては、教員の学会活動の奨励、研究成果の公表、専門書の刊行、優れた教科書、教材等の作成などを教員の研究能力向上の評価として奨励する。教員の研究活動を助成する。国及び民間が行っている研究助成への積極的参加を促す。</p>	<p>○FD委員会を設置した。FDに関して計画に沿って履行している。学生による各教員の授業アンケートを実施し、教育の改善に役立てている。また全教員による勉強会を専門の講師を招聘しFDに関する講演を計画している。</p> <p>○紀要委員会を設置し、3月末日、日本医療科学大学紀要の発行を計画的に進めている。</p>
<p>(b) 教員研修</p> <p>全教員参加による勉強会を専門の講師を招聘して年1回以上行う。</p> <p>分野別の関連教員について専門分野の教育指導能力向上のための勉強会を年1回以上行う。</p>	<p>○学会への参加、論文発表、専門書の刊行、教材の作成、などを行い、各教員が研究能力の向上につとめている</p> <p>○各分野別の関連教員についても専門分野の教育指導能力向上のための勉強会の実施に関して計画を進めている。</p>
<p>(c) 授業評価等の実施</p> <p>教員相互での授業参観を行い、教育内容・方法について参加教員からアンケートをとり、FD委員会がその資料を各教員ごとに集計し、授業を行った教員に改善すべき点などを通知する。</p> <p>通知を受けた教員は改善策を施し、FD委員会へ報告する。</p> <p>学生による各教員の授業に関するアンケートを行う。</p>	<p>○教育内容・方法などについての授業評価の実施について計画を進めている。</p> <p>○FDに関しては、学生による授業に関するアンケートを実施し検討した。</p>

⑨管理運営の考え方

認可時の計画	履行状況										
<p>(a) 組織体制</p> <p>管理運営組織</p> <table border="0"> <tr> <td>理事長</td> <td>新藤宣夫</td> </tr> <tr> <td>学長</td> <td>佐藤泰正</td> </tr> <tr> <td>学部長</td> <td>金子勝治</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科長</td> <td>中谷儀一郎</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション学科長</td> <td>柳沢 健</td> </tr> </table>	理事長	新藤宣夫	学長	佐藤泰正	学部長	金子勝治	診療放射線学科長	中谷儀一郎	リハビリテーション学科長	柳沢 健	<p>○管理運営組織</p> <p>理事長:新藤宣夫(平成18年12月) 学長:佐藤泰正(平成19年4月) 学部長:金子勝治(平成19年4月) 診療放射線学科長:中谷儀一郎(平成19年4月) リハビリテーション学科長 柳沢 健(平成21年10月)</p> <p>()内は就任年月日。リハビリテーション学科長、柳沢健については就任予定。</p> <p>教育理念・目的により、各委員会を設置し、また委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進している。</p>
理事長	新藤宣夫										
学長	佐藤泰正										
学部長	金子勝治										
診療放射線学科長	中谷儀一郎										
リハビリテーション学科長	柳沢 健										
<p>(b) 審議事項</p> <p>教授会の下に各種委員会を設置し、管理運営を行い審議事項を協議する。</p>	<p>○日本医療科学大学保健医療学部組織図に則り、下記委員会を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験委員会 ・教務委員会 ・学生委員会 ・図書委員会 ・研究委員会 ・紀要委員会 ・公開講座委員会 ・FD委員会 ・広報委員会 ・ハラスメント委員会 <p>これらの委員会については、それぞれ委員会の規定を設け、その規定に沿って協議を行っている。</p> <p>○以下の委員会については、大学の将来の発展に向けた改善・改革を履行できるようにするため、設置計画中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会 ・大学改善委員会 ・将来計画委員会 <p>日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬) 各種委員会規定(添付資料⑭)</p>										

⑩その他

事 項	対 応 状 況
特記事項なし	

(2) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)

② 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

①設置の趣旨及び必要性

認可時の計画	履行状況
<p>教育上の理念、目的 本学は次の4つに集約される教育理念を掲げる。</p> <p>①人間性 人間の生命を尊重し、相互に助け合い、思いやりの精神をもち、かつ個人として自立できる人材の育成を目指す。</p> <p>②問題解決性 知識や技術を身につけるだけでなく、常に問題解決に向けて意欲的に取り組む人材を育成する。</p> <p>③社会性 発展する社会の一員としての自覚を高め、社会科学に関する教養を身につけた人材を育成する。そして、社会に開かれた大学を目指し、地域社会はもとより、我が国、さらに国際社会に開かれたものとする。</p> <p>④未来性 未来がどのように展開されるかを常に念頭に置き、近未来課題を研究し、未来に向かって必要とされる人材を育成する。</p>	<p>○教育上の理念、目的を以下の資料により明示し、計画通り履行。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料① 見開き参照) ホームページ(http://www.nims.ac.jp/) 学校説明会、オープンキャンパス、各種進路説明会などにおいて、説明を積極的に行った。特に本学への入学希望者に対しては①～④の教育理念に関してよく説明を行った。</p>

②教育課程の編成の考え方及び特色

認可時の計画	履行状況
<p>(a)教育課程編成の考え方</p> <p>理念、目的に即して、</p> <p>①基礎教育科目(30単位以上)</p> <p>「哲学」「倫理学」「心理学」「教育学」「文学」「社会学」「歴史学」「国際関係論」「比較文化論」「法学」「経済学」「政治学」「人間関係論」「コミュニケーション論」「生物学」「物理学」「化学」「数学」「統計学」「環境科学」「情報科学」「人間と健康」「国際保健学」「健康とスポーツ」「文章表現演習」「速読法演習」「コンピュータⅠ」「コンピュータⅡ」「基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「スペイン語Ⅰ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」</p> <p>②専門教育科目・専門基礎科目(36単位以上)</p> <p>「解剖学」「解剖学実習」「応用解剖学」「生理学」「生理学実習」「応用生理学」「運動学」「運動学実習」「臨床運動学」「臨床心理学」「人間発達学」「病理学」「衛生学・公衆衛生学」「一般臨床医学」「内科学」「整形外科」「神経内科学」「精神医学」「小児科学」「薬理学」「微生物学」「リハビリテーション概論」「チーム医療演習」「リハビリテーション医学」「社会福祉学」「障害者・高齢者の福祉」「障害者・高齢者の心理」「作業療法学概論」「言語聴覚学概論」「医療放射線学概論」「スポーツ傷害学」「救命救急医学」「栄養学」「看護学」「臨床検査論」「生命倫理学」「安全管理論」</p> <p>③専門教育科目・専門科目(64単位以上)</p> <p>「理学療法学研究法」「基礎理学療法学」「基礎理学療法学実習」「理学療法学見学実習」「理学療法学見学実習セミナー」「理学療法学研究法」「理学療法学系英文講読Ⅰ」「理学療法学系英文講読Ⅱ」「機能・能力診断学臨床実習セミナー」「総合臨床実習Ⅰセミナー」「総合臨床実習Ⅱセミナー」「機能・能力診断学」「機能・能力診断学実習Ⅰ」「機能・能力診断学実習Ⅱ」「生体観察と触診法」「動作分析学」「運動療法学」「骨・関節系疾患理学療法学」「骨・関節系疾患理学療法学実習」「成人中枢神経系疾患理学療法学」「成人中枢神経系疾患理学療法学実習」「小児中枢神経系疾患理学療法学」「小児中枢神経系疾患理学療法学実習」「呼吸・循環器系疾患理学療法学」「呼吸・循環器系疾患理学療法学実習」「物理療法学」「物理療法学実習」「日常生活活動理学療法学」「義肢装具学実習」「日常生活活動理学療法学実習」「義肢装具学」「スポーツ理学療法学」「特殊テクニク論」「統合理学療法学演習」「地域理学療法学演習」「地域理学療法学」「生活支援系理学療法学」</p>	<p>○設置認可申請書、授業科目の概要(様式2号)により履行している。(添付資料③)</p> <p>○留意事項について学内で十分に検討した上で4月から、設置の趣旨、目的などを反映させた学生便覧(添付資料④)、シラバス(添付資料⑤)を作成し履行している。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>「生活支援系理学療法学演習」 「機能・能力診断学臨床実習」「総合臨床実習Ⅰ」 「総合臨床実習Ⅱ」「卒業研究」</p> <p>により、教育課程を体系的に編成する。</p> <p>(b)教育課程編成の特色</p> <p>教育課程の展開にあたり特に下記の点について重点的に取り組む。</p> <p>①人文科学系の授業を多数開設。 「医の倫理」について「生命倫理学」を必修とする。</p> <p>②社会科学系の科目を多数開設。</p> <p>③自然科学系の科目を多数開設。</p> <p>④情報の速読速解、情報の処理、情報の表現・発信等に関する科目を開設。 「コンピュータⅠ」を必修とする。</p> <p>⑤国際化に対応するため以下の科目を開設。 第一外国語を英語とし必修とする。 第二外国語を中国語(選択)、スペイン語とし、選択とする。 また、国際的教養・知識・感覚を身につけるため 「国際関係論」「比較文化論」「国際保健学」を開設。</p> <p>⑥講義・演習・ゼミを通して問題解決能力を養成。</p> <p>⑦専門的知識・能力及び臨床能力の養成を通じて、 専門家の育成をはかる。</p>	<p>○特色については学生便覧に詳細に記載、明示。 学生便覧(添付資料④P7～P10参照)</p> <p>○科目の内容についてはシラバスに記載、明示。 シラバス(添付資料⑤参照) 基礎教育科目(学科共通) P1～P40 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 専門基礎科目 P55～P62 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 専門科目 P63～P67</p> <p>但し、開学年度につき1年次のみ科目を示している。</p>

③履修指導の方法

認可時の計画	履行状況														
<p>(a) 標準終了年限 学則 第3条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は8年を超えることができない。</p>	<p>○修業年限を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P1参照) 学生便覧(添付資料④P20、P58参照)</p>														
<p>(b) 卒業要件 学則 第23条 学部学科を卒業するために、必要とされる最低単位数は、次の通りとする。 リハビリテーション学科(理学療法学専攻)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>基礎教育科目</td> <td style="text-align: right;">30単位</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td style="text-align: right;">100単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎科目</td> <td style="text-align: right;">必修 34単位</td> </tr> <tr> <td>理学療法専門科目</td> <td style="text-align: right;">必修 57単位</td> </tr> <tr> <td>卒業研究</td> <td style="text-align: right;">4単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u></td> </tr> <tr> <td>合計卒業要件単位数</td> <td style="text-align: right;">130単位</td> </tr> </table>	基礎教育科目	30単位	専門教育科目	100単位	専門基礎科目	必修 34単位	理学療法専門科目	必修 57単位	卒業研究	4単位	<u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u>		合計卒業要件単位数	130単位	<p>○卒業要件を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P4参照) 学生便覧(添付資料④P20、P21、P61参照)</p>
基礎教育科目	30単位														
専門教育科目	100単位														
専門基礎科目	必修 34単位														
理学療法専門科目	必修 57単位														
卒業研究	4単位														
<u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u>															
合計卒業要件単位数	130単位														
<p>(c) 進級要件、履修科目の登録の上限 進級要件、履修科目の登録の上限については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。 学則 第15条 基礎科目は、主として前期2ヶ年に、専門科目は4ヶ年に履修するものとする。 学則 第16条 基礎教育科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 学則 第17条 専門科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 2 他学科の専門科目は、許可を得て履修することができる。 学則 第18条 履修する授業科目は、毎学年所定の期間に登録しなければならない。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P20、P60)</p> <p>必要な単位を修得した者には進級を認める。進級条件を満たさない場合は、留年となる。進級基準は別に定める。</p>														

認可時の計画	履行状況
<p>(d) 成績評価法、基準 成績評価法、基準については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。 学則 第19条 単位の認定は、試験によって行う。ただし、授業科目の種類によっては、他の方法によることができる。 学則 第20条 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学期末又は、学年末に行う。 学則 第21条 いずれの授業科目も、授業時間の3分の1以上欠席した場合には、当該授業科目の受験資格を失う。 ただし、病気又は、正当な理由による長期欠席の場合には、特に考慮されることがある。なお、この場合には、別に定める追試験を受けることができる。 学則 第22条 各授業科目の試験の成績は、A、B、C、Dの評価で表し、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P20、P35 P36、P37、P60、P61参照)</p>
<p>(e) 既修得単位の認定方法等 既修得単位の認定方法等については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。 学則 第13条 3 教育上有益と認められるときは、大学以外の教育施設等における学習について大学が単位の認定できる範囲を拡大し、単位を授与することが適切と認められる場合には、授与する単位数を定めることができる。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P20、P60参照)</p>

④各施設、学生の自習室等の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 講義・演習室 校舎は、1～5期の5棟で合計10,068.73㎡となり、講義室24、実験・実習室21、演習室5、情報処理教室1、教材室14を配置する。 ゼミやグループ単位での学習の場として、20人規模の演習室を5部屋配置する。 5期校舎を新築し、一般教養課程用の講義室(40人収容×12室)、図書館(120席)及び食堂(180席)を配置する。 各講義室にはプロジェクターを設置し、パワーポイント等を利用した授業展開を可能とする。</p>	<p>○計画に沿い順次整備を進めている。 5期校舎は、平成19年2月に竣工した。 5期校舎平面図(添付資料⑦参照)</p>
<p>(b) 自習室 自習室に関しては、認可当初特に計画をしていなかったが、学生が自習可能なように現在計画を進めている。</p>	<p>○認可時の計画にはないが、マルチメディア教室などを自習室として使用する検討を行っている。また、5期校舎及び1期～4期校舎の教室を自習室として時間・利用方法を定めて、課外活動や予習・復習などに利用できるよう検討を行い、実施している。</p>
<p>(c) 図書(データベース等含む) 5期校舎に231㎡の図書館を設け、学習、閲覧用に100席及びインターネット接続のPCテーブルを20席確保する。蔵書は各医療分野に亘る専門書を中心に11,000冊を収容し、デジタルデータベースの内容も充実させる。</p>	<p>○5期校舎に図書館を設け、計画に沿って履行している。 5期校舎平面図(添付資料⑦参照) ○図書館利用の手引きに基づき、学生に活用させている。 学生便覧(添付資料④P55参照) 図書館利用の手引き(添付資料⑧参照)</p>
<p>(d) 情報設備 マルチメディア教室に、48台のパソコンと大小3つのスクリーンを設置し、情報科学、画像情報の場として活用する。</p>	<p>○マルチメディア教室を設け、マルチメディア教室利用の手引きに基づき、コンピュータウイルス、著作権、人権、個人情報などの問題に注意させながら、学生に活用させている。 学生便覧(添付資料④P55参照) マルチメディア教室利用の手引き(添付資料⑨参照)</p>

⑤入学者選抜の概要

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 入学者選抜の概要</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業者、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 <p>3 選考方法とその人数</p> <p>(1)推薦入学……………募集人員の30% 「調査書」と「面接」および「小論文」</p> <p>(2)一般入試……………募集人員の70% 「学力試験」と「調査書」による総合判定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション学科(理学療法学専攻) 学力試験(「英語」(必須) 「国語」・「物理」・「生物」・「化学」の中から一科目選択) 	<p>○2007年度入試を下記により実施した。</p> <p>推薦入試(25名) 「英語」「面接」 「小論文」に代わり「英語」を実施した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>一般入試(55名) 「英語」(必須) 「数学」「生物」より1科目選択 「面接」</p> <p>選択科目「国語」、「物理」、「化学」を除き、「数学」を追加した。</p> <p>「面接」を課した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>推薦入学試験は調査書と面接及び小論文をおこなう予定であったが、小論文は受験生の学力を総合的に判断するものであるが、初年度においては小論文の代わりに、基礎学力試験の英語を実施した。</p> <p>しかし、今年度(2008年度)においては当初の計画通り実施予定である。</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩P5参照)</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(b) アドミッション・ポリシー</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業者、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 	<p>○大学案内・学生募集要項及びホームページ等に明示し、本学のアドミッション・ポリシーの徹底をはかっている。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料①参照)</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩ 見開き参照)</p> <p>2008年度大学案内(添付資料⑪ P1、P3参照)</p> <p>2008年度入試ガイド(添付資料⑫ 見開き参照)</p> <p>ホームページ(http://www.nims.ac.jp/)</p>
<p>(c) 社会人受け入れのための具体的方策</p> <p>特に計画はしていない。</p>	<p>○教育上の理念、目的を踏まえ検討を行っている。</p> <p>現行の入試制度において、社会人については、一般Ⅰ期・Ⅱ期での対応を考えている。なお、今後については、社会人の再教育も重要だと認識しており、昼夜一部開講制度の導入や社会人枠入試制度の検討を行っている。</p>

⑥自己点検・評価

認可時の計画	履行状況
<p>実施体制</p> <p>1 自己点検・評価に関して、学内に自己点検・評価委員会を置き、大学独自の自己点検・評価委員会を組織し、教育・研究体制、教育理念・目的、管理運営、学生生活、社会的役割・貢献度などについて、不断の点検を行う。</p> <p>(1)点検評価体制 委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進する。</p> <p>(2)評価結果の報告 点検結果は年次報告書として、学長及び教授会に提出する。学長は提出された年次報告書を理事会に報告するとともに、全教職員に配布する。また、ホームページによりその大綱を学外に公開する。</p> <p>(3)点検の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学設置の趣旨に基づく教育・研究の理念・目的の確認と不断の改善 ②教育・研究上の組織の点検と改善 ③教育課程の編成など、教育推進活動の現状と課題 ④教育方法の検討と改善 ⑤研究活動の状況と研究支援体制の改善 ⑥管理運営体制の点検と改善 ⑦施設・設備等の点検と改善 ⑧図書等の資料及び図書館の点検と改善 ⑨地域社会への貢献の現状及び改善 ⑩学生受け入れ ⑪学生生活への配慮の状況と改善 ⑫自己点検評価体制の現状と改善 <p>(4)自己点検・評価結果の利活用 自己点検・評価の結果が大学の将来の発展に向けた改善・改革になるための具体的な改善組織として、大学改善委員会、将来計画委員会を設置する。 自己点検評価の結果は教授会の議を経て、大学評議委員会、理事会に提案され、その審議を経て大学の教育・研究・経営の面の改善がなされるようにする。 大学基準協会の加盟を考えている。</p>	<p>○入学試験委員会、教務委員会、学生委員会、図書委員会、公開講座委員会、広報委員会等の委員会を設置(別紙参照)し、教育理念・目的に添って自己点検および改善を行っている。今後、大学の将来の発展に向け、自己点検評価委員会、大学改善委員会、将来計画委員会の設置を検討している。さらに、大学基準協会への加入を検討している。(平成22年度に私大協などの外部評価機関への加入を予定している。)</p> <p>別紙参照： 日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬)</p>

⑦情報提供

認可時の計画	履行状況
<p>○学内(学生・教職員向け)</p> <p>実施方法</p> <p>1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。</p> <p>2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。</p> <p>3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。</p> <p>4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。</p> <p>5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。</p> <p>○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。</p> <p>○紀要委員会を設置した。年度末の刊行を予定している。</p> <p>○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>
<p>○学外(受験生・地域社会向け)</p> <p>実施方法</p> <p>1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。</p> <p>2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。</p> <p>3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。</p> <p>4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。</p> <p>5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。</p> <p>○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。</p> <p>○紀要委員会を設置した。</p> <p>○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>

⑧教員の資質の維持向上の方策

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 実施体制</p> <p>学内に学長を委員長とするFD委員会を設置し、大学構成員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を目指し、各視点ごとに目標の達成の度合いを評価する。</p> <p>(1)教育指導能力の向上に関しては、教育内容、教育方法、教育効果の把握のためのFDを開催する。</p> <p>(2)研究能力の向上に関しては、教員の学会活動の奨励、研究成果の公表、専門書の刊行、優れた教科書、教材等の作成などを教員の研究能力向上の評価として奨励する。教員の研究活動を助成する。国及び民間が行っている研究助成への積極的参加を促す。</p>	<p>○FD委員会を設置した。FDに関して計画に沿って履行している。学生による各教員の授業アンケートを実施し、教育の改善に役立てている。また全教員による勉強会を専門の講師を招聘しFDに関する講演を計画している。</p> <p>○紀要委員会を設置し、3月末日、日本医療科学大学紀要の発行を計画的に進めている。</p>
<p>(b) 教員研修</p> <p>全教員参加による勉強会を専門の講師を招聘して年1回以上行う。</p> <p>分野別の関連教員について専門分野の教育指導能力向上のための勉強会を年1回以上行う。</p>	<p>○学会への参加、論文発表、専門書の刊行、教材の作成、などを行い、各教員が研究能力の向上につとめている</p> <p>○各分野別の関連教員についても専門分野の教育指導能力向上のための勉強会の実施に関して計画を進めている。</p>
<p>(c) 授業評価等の実施</p> <p>教員相互での授業参観を行い、教育内容・方法について参加教員からアンケートをとり、FD委員会がその資料を各教員ごとに集計し、授業を行った教員に改善すべき点などを通知する。</p> <p>通知を受けた教員は改善策を施し、FD委員会へ報告する。</p> <p>学生による各教員の授業に関するアンケートを行う。</p>	<p>○教育内容・方法などについての授業評価の実施について計画を進めている。</p> <p>○FDに関しては、学生による授業に関するアンケートを実施し検討した。</p>

⑨管理運営の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 組織体制</p> <p>管理運営組織</p> <p>理事長 新藤宣夫</p> <p>学長 佐藤泰正</p> <p>学部長 金子勝治</p> <p>診療放射線学科長 中谷儀一郎</p> <p>リハビリテーション学科長 柳沢 健</p>	<p>○管理運営組織</p> <p>理事長:新藤宣夫(平成18年12月)</p> <p>学長:佐藤泰正(平成19年4月)</p> <p>学部長:金子勝治(平成19年4月)</p> <p>診療放射線学科長:中谷儀一郎(平成19年4月)</p> <p>リハビリテーション学科長 柳沢 健(平成21年10月)</p> <p>()内は就任年月日。リハビリテーション学科長、柳沢健については就任予定。</p> <p>教育理念・目的により、各委員会を設置し、また委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進している。</p>
<p>(b) 審議事項</p> <p>教授会の下に各種委員会を設置し、管理運営を行い審議事項を協議する。</p>	<p>○日本医療科学大学保健医療学部組織図に則り、下記委員会を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験委員会 ・教務委員会 ・学生委員会 ・図書委員会 ・研究委員会 ・紀要委員会 ・公開講座委員会 ・FD委員会 ・広報委員会 ・ハラスメント委員会 <p>これらの委員会については、それぞれ委員会の規定を設け、その規定に沿って協議を行っている。</p> <p>○以下の委員会については、大学の将来の発展に向けた改善・改革を履行できるようにするため、設置計画中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会 ・大学改善委員会 ・将来計画委員会 <p>日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬) 各種委員会規定(添付資料⑭)</p>

⑩その他

事 項	対 応 状 況
特記事項なし	

(2) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)

② 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

①設置の趣旨及び必要性

認可時の計画	履行状況
<p>教育上の理念、目的 本学は次の4つに集約される教育理念を掲げる。</p> <p>①人間性 人間の生命を尊重し、相互に助け合い、思いやりの精神をもち、かつ個人として自立できる人材の育成を目指す。</p> <p>②問題解決性 知識や技術を身につけるだけでなく、常に問題解決に向けて意欲的に取り組む人材を育成する。</p> <p>③社会性 発展する社会の一員としての自覚を高め、社会科学に関する教養を身につけた人材を育成する。そして、社会に開かれた大学を目指し、地域社会はもとより、我が国、さらに国際社会に開かれたものとする。</p> <p>④未来性 未来がどのように展開されるかを常に念頭に置き、近未来課題を研究し、未来に向かって必要とされる人材を育成する。</p>	<p>○教育上の理念、目的を以下の資料により明示し、計画通り履行。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料① 見開き参照) ホームページ(http://www.nims.ac.jp/) 学校説明会、オープンキャンパス、各種進路説明会などにおいて、説明を積極的に行った。特に本学への入学希望者に対しては①～④の教育理念に関してよく説明を行った。</p>

②教育課程の編成の考え方及び特色

認可時の計画	履行状況
<p>(a)教育課程編成の考え方</p> <p>理念、目的に即して、</p> <p>①基礎教育科目(30単位以上)</p> <p>「哲学」「倫理学」「心理学」「教育学」「文学」「社会学」「歴史学」「国際関係論」「比較文化論」「法学」「経済学」「政治学」「人間関係論」「コミュニケーション論」「生物学」「物理学」「化学」「数学」「統計学」「環境科学」「情報科学」「人間と健康」「国際保健学」「健康とスポーツ」「文章表現演習」「速読法演習」「コンピュータⅠ」「コンピュータⅡ」「基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「スペイン語Ⅰ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」</p> <p>②専門教育科目・専門基礎科目(36単位以上)</p> <p>「解剖学」「解剖学実習」「応用解剖学」「生理学」「生理学実習」「応用生理学」「運動学」「運動学実習」「臨床運動学」「臨床心理学」「人間発達学」「病理学」「衛生学・公衆衛生学」「一般臨床医学」「内科学」「整形外科」「神経内科学」「精神医学」「小児科学」「薬理学」「微生物学」「リハビリテーション概論」「チーム医療演習」「リハビリテーション医学」「社会福祉学」「障害者・高齢者の福祉」「障害者・高齢者の心理」「理業療法学概論」「言語聴覚学概論」「医療放射線学概論」「スポーツ傷害学」「救命救急医学」「栄養学」「看護学」「臨床検査論」「生命倫理学」「安全管理論」</p> <p>③専門教育科目・専門科目(64単位以上)</p> <p>「作業療法学概論」「基礎作業学」「基礎作業学実習」「生活支援環境学」「作業療法学見学実習」「作業療法学見学実習セミナー」「作業療法学研究法」「作業療法学系英文講読Ⅰ」「作業療法学系英文講読Ⅱ」「作業療法学総合臨床実習Ⅰセミナー」「作業療法学総合臨床実習Ⅱセミナー」「作業療法評価学Ⅰ」「作業療法評価学Ⅱ」「作業療法評価学演習Ⅰ」「作業療法評価学演習Ⅱ」「作業療法評価学演習Ⅲ」「作業療法評価学臨床実習セミナー」「身体障害作業療法学」「身体障害作業療法学演習Ⅰ」「身体障害作業療法学演習Ⅱ」「精神障害作業療法学」「精神障害作業療法学演習」「老年期障害作業療法学」「老年期障害作業療法学演習」「発達障害作業療法学」「発達障害作業療法学演習」「作業療法技術演習」「高次神経障害作業療法学」「日常生活活動学演習Ⅰ」「高次神経障害作業療法学演習」「日常生活活動学」「日常生活活動学演習Ⅱ」「義肢・装具学」「義肢・装具学演習」「生活支援機器学」「生活支援機器学演習」「作業療法学特論」「統合作業療法学演習」「地域作業療法学」「地域作業療法学演習」「作業療法評価学臨床実習」</p>	<p>○設置認可申請書、授業科目の概要(様式2号)により履行している。(添付資料③)</p> <p>○留意事項について学内で十分に検討した上で4月から、設置の趣旨、目的などを反映させた学生便覧(添付資料④)、シラバス(添付資料⑤)を作成し履行している。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>「生活支援系理学療法学演習」 「機能・能力診断学臨床実習」「総合臨床実習Ⅰ」 「総合臨床実習Ⅱ」「卒業研究」</p> <p>により、教育課程を体系的に編成する。</p> <p>(b)教育課程編成の特色 教育課程の展開にあたり特に下記の点について重点的に取り組む。</p> <p>①人文科学系の授業を多数開設。 「医の倫理」について「生命倫理学」を必修とする。</p> <p>②社会科学系の科目を多数開設。</p> <p>③自然科学系の科目を多数開設。</p> <p>④情報の速読速解、情報の処理、情報の表現・発信等に関する科目を開設。 「コンピュータⅠ」を必修とする。</p> <p>⑤国際化に対応するため以下の科目を開設。 第一外国語を英語とし必修とする。 第二外国語を中国語(選択)、スペイン語とし、選択とする。 また、国際的教養・知識・感覚を身につけるため「国際関係論」「比較文化論」「国際保健学」を開設。</p> <p>⑥講義・演習・ゼミを通して問題解決能力を養成。</p> <p>⑦専門的知識・能力及び臨床能力の養成を通じて、専門家の育成をはかる。</p>	<p>○特色については学生便覧に詳細に記載、明示。 学生便覧(添付資料④P7～P10参照)</p> <p>○科目の内容についてはシラバスに記載、明示。 シラバス(添付資料⑤参照) 基礎教育科目(学科共通) P1～P40 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 専門基礎科目 P68～P75 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 専門科目 P76～P81</p> <p>但し、開学年度につき1年次のみ科目を示している。</p>

③履修指導の方法

認可時の計画	履行状況														
<p>(a) 標準終了年限 学則 第3条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は8年を超えることができない。</p>	<p>○修業年限を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P1参照) 学生便覧(添付資料④P27、P58参照)</p>														
<p>(b) 卒業要件 学則 第23条 学部学科を卒業するために、必要とされる最低単位数は、次の通りとする。 リハビリテーション学科(作業療法学専攻)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>基礎教育科目</td> <td style="text-align: right;">30単位</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td style="text-align: right;">100単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎科目</td> <td style="text-align: right;">必修 34単位</td> </tr> <tr> <td>作業療法専門科目</td> <td style="text-align: right;">必修 57単位</td> </tr> <tr> <td>卒業研究</td> <td style="text-align: right;">4単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u></td> </tr> <tr> <td>合計卒業要件単位数</td> <td style="text-align: right;">130単位</td> </tr> </table>	基礎教育科目	30単位	専門教育科目	100単位	専門基礎科目	必修 34単位	作業療法専門科目	必修 57単位	卒業研究	4単位	<u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u>		合計卒業要件単位数	130単位	<p>○卒業要件を学則、学生便覧に明示し、履行している。 学則(添付資料⑥P4参照) 学生便覧(添付資料④P27、P28、P61参照)</p>
基礎教育科目	30単位														
専門教育科目	100単位														
専門基礎科目	必修 34単位														
作業療法専門科目	必修 57単位														
卒業研究	4単位														
<u>この他に選択科目から5単位以上を履修する</u>															
合計卒業要件単位数	130単位														
<p>(c) 進級要件、履修科目の登録の上限 進級要件、履修科目の登録の上限については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。 学則 第15条 基礎科目は、主として前期2ヶ年に、専門科目は4ヶ年に履修するものとする。 学則 第16条 基礎教育科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 学則 第17条 専門科目は、学部学科所定の授業科目及び所定の単位以上を履修しなければならない。 2 他学科の専門科目は、許可を得て履修することができる。 学則 第18条 履修する授業科目は、毎学年所定の期間に登録しなければならない。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。 学生便覧(添付資料④P27、P60)</p> <p>必要な単位を修得した者には進級を認める。進級条件を満たさない場合は、留年となる。進級基準は別に定める。</p>														

認可時の計画	履行状況
<p>(d) 成績評価法、基準</p> <p>成績評価法、基準については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。</p> <p>学則 第19条 単位の認定は、試験によって行う。ただし、授業科目の種類によっては、他の方法によることができる。</p> <p>学則 第20条 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学期末又は、学年末に行う。</p> <p>学則 第21条 いずれの授業科目も、授業時間の3分の1以上欠席した場合には、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による長期欠席の場合には、特に考慮されることがある。なお、この場合には、別に定める追試験を受けることができる。</p> <p>学則 第22条 各授業科目の試験の成績は、A, B, C, Dの評価で表し、A, B, Cを合格とし、Dを不合格とする。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。</p> <p>学生便覧(添付資料④P27、P35 P36、P37、P60、P61参照)</p>
<p>(e) 既修得単位の認定方法等</p> <p>既修得単位の認定方法等については特に設置の趣旨には述べられていないが、学則及び学生便覧に記載されている。</p>	<p>○学則に明示し、履行している。</p> <p>学則 第13条 3 教育上有益と認められるときは、大学以外の教育施設等における学習について大学が単位を認定できる範囲を拡大し、単位を授与することが適切と認められる場合には、授与する単位数を定めることができる。</p> <p>○学生便覧に明示し、履行している。</p> <p>学生便覧(添付資料④P27、P60参照)</p>

④各施設、学生の自習室等の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 講義・演習室 校舎は、1～5期の5棟で合計10,068.73㎡となり、講義室24、実験・実習室21、演習室5、情報処理教室1、教材室14を配置する。 ゼミやグループ単位での学習の場として、20人規模の演習室を5部屋配置する。 5期校舎を新築し、一般教養課程用の講義室(40人収容×12室)、図書館(120席)及び食堂(180席)を配置する。 各講義室にはプロジェクターを設置し、パワーポイント等を利用した授業展開を可能とする。</p>	<p>○計画に沿い順次整備を進めている。 5期校舎は、平成19年2月に竣工した。 5期校舎平面図(添付資料⑦参照)</p>
<p>(b) 自習室 自習室に関しては、認可当初特に計画をしていなかったが、学生が自習可能なように現在計画を進めている。</p>	<p>○認可時の計画にはないが、マルチメディア教室などを自習室として使用する検討を行っている。また、5期校舎及び1期～4期校舎の教室を自習室として時間・利用方法を定めて、課外活動や予習・復習などに利用できるよう検討を行い、実施している。</p>
<p>(c) 図書(データベース等含む) 5期校舎に231㎡の図書館を設け、学習、閲覧用に100席及びインターネット接続のPCテーブルを20席確保する。蔵書は各医療分野に亘る専門書を中心に11,000冊を収容し、デジタルデータベースの内容も充実させる。</p>	<p>○5期校舎に図書館を設け、計画に沿って履行している。 5期校舎平面図(添付資料⑦参照) ○図書館利用の手引きに基づき、学生に活用させている。 学生便覧(添付資料④P55参照) 図書館利用の手引き(添付資料⑧参照)</p>
<p>(d) 情報設備 マルチメディア教室に、48台のパソコンと大小3つのスクリーンを設置し、情報科学、画像情報の場として活用する。</p>	<p>○マルチメディア教室を設け、マルチメディア教室利用の手引きに基づき、コンピュータウイルス、著作権、人権、個人情報などの問題に注意させながら、学生に活用させている。 学生便覧(添付資料④P55参照) マルチメディア教室利用の手引き(添付資料⑨参照)</p>

⑤入学者選抜の概要

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>(a) 入学者選抜の概要</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業生、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 <p>3 選考方法とその人数</p> <p>(1)推薦入学……………募集人員の30% 「調査書」と「面接」および「小論文」</p> <p>(2)一般入試……………募集人員の70% 「学力試験」と「調査書」による総合判定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション学科(作業療法学専攻) 学力試験(「英語」(必須) 「国語」・「物理」・「生物」・「化学」の中から一科目選択) 	<p>○2007年度入試を下記により実施した。</p> <p>推薦入試(25名) 「英語」「面接」 「小論文」に代わり「英語」を実施した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>一般入試(55名) 「英語」(必須) 「数学」「生物」より1科目選択 「面接」 選択科目「国語」、「物理」、「化学」を除き、「数学」を追加した。</p> <p>「面接」を課した。</p> <p>2007年度学生募集要項(添付資料②P3参照)</p> <p>推薦入学試験は調査書と面接及び小論文をおこなう予定であったが、小論文は受験生の学力を総合的に判断するものであるが、初年度においては小論文の代わりに、基礎学力試験の英語を実施した。</p> <p>しかし、今年度(2008年度)においては当初の計画通り実施予定である。</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩P5参照)</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(b) アドミッション・ポリシー</p> <p>1 本学が求める入学候補者は、将来医療関係者(診療放射線技師・理学療法士・作業療法士)として、さらに大学院進学による研究者としても活躍が期待される学生の受け入れを行う。</p> <p>2 入学資格</p> <p>(1)高等学校(中等教育学校を含む)の卒業者、または卒業見込みの者</p> <p>(2)当該学校長の推薦が得られ、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3)本学の求める人物像に合致する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に対して確かな目的意識を持ち、何よりも学ぶ姿勢を大切にしている者 ・とりわけ日本医療科学大学で学ぶことに意欲を持っている者 ・真剣に自己形成に励み、将来の進路選択に向けて地道に努力する者 ・言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている者 ・挨拶や適切な言葉遣いによって自分を表現する力が育っている者 ・他人への思いやりや連帯感を持っている者 ・人間としてのたしなみと好ましい対人態度を身につけ、人間関係を育みながら自己教育につとめ、健全は社会人として活躍する可能性を秘めた者 	<p>○大学案内・学生募集要項及びホームページ等に明示し、本学のアドミッション・ポリシーの徹底をはかっている。</p> <p>2007年度大学案内(添付資料①参照)</p> <p>2008年度学生募集要項(添付資料⑩ 見開き参照)</p> <p>2008年度大学案内(添付資料⑪ P1、P3参照)</p> <p>2008年度入試ガイド(添付資料⑫ 見開き参照)</p> <p>ホームページ(http://www.nims.ac.jp/)</p>
<p>(c) 社会人受け入れのための具体的方策</p> <p>特に計画はしていない。</p>	<p>○教育上の理念、目的を踏まえ検討を行っている。</p> <p>現行の入試制度において、社会人については、一般Ⅰ期・Ⅱ期での対応を考えている。なお、今後については、社会人の再教育も重要だと認識しており、昼夜一部開講制度の導入や社会人枠入試制度の検討を行っている。</p>

⑥自己点検・評価

認可時の計画	履行状況
<p>実施体制</p> <p>1 自己点検・評価に関して、学内に自己点検・評価委員会を置き、大学独自の自己点検・評価委員会を組織し、教育・研究体制、教育理念・目的、管理運営、学生生活、社会的役割・貢献度などについて、不断の点検を行う。</p> <p>(1)点検評価体制 委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進する。</p> <p>(2)評価結果の報告 点検結果は年次報告書として、学長及び教授会に提出する。学長は提出された年次報告書を理事会に報告するとともに、全教職員に配布する。また、ホームページによりその大綱を学外に公開する。</p> <p>(3)点検の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学設置の趣旨に基づく教育・研究の理念・目的の確認と不断の改善 ②教育・研究上の組織の点検と改善 ③教育課程の編成など、教育推進活動の現状と課題 ④教育方法の検討と改善 ⑤研究活動の状況と研究支援体制の改善 ⑥管理運営体制の点検と改善 ⑦施設・設備等の点検と改善 ⑧図書等の資料及び図書館の点検と改善 ⑨地域社会への貢献の現状及び改善 ⑩学生受け入れ ⑪学生生活への配慮の状況と改善 ⑫自己点検評価体制の現状と改善 <p>(4)自己点検・評価結果の利活用 自己点検・評価の結果が大学の将来の発展に向けた改善・改革になるための具体的な改善組織として、大学改善委員会、将来計画委員会を設置する。 自己点検評価の結果は教授会の議を経て、大学評議委員会、理事会に提案され、その審議を経て大学の教育・研究・経営の面の改善がなされるようにする。 大学基準協会の加盟を考えている。</p>	<p>○入学試験委員会、教務委員会、学生委員会、図書委員会、公開講座委員会、広報委員会等の委員会を設置(別紙参照)し、教育理念・目的に添って自己点検および改善を行っている。今後、大学の将来の発展に向け、自己点検評価委員会、大学改善委員会、将来計画委員会の設置を検討している。さらに、大学基準協会への加入を検討している。(平成22年度に私大協などの外部評価機関への加入を予定している。)</p> <p>別紙参照： 日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬)</p>

⑦情報提供

認可時の計画	履行状況
<p>○学内(学生・教職員向け)</p> <p>実施方法</p> <p>1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。</p> <p>2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。</p> <p>3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。</p> <p>4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。</p> <p>5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。</p> <p>○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。</p> <p>○紀要委員会を設置した。</p> <p>○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>
<p>○学外(受験生・地域社会向け)</p> <p>実施方法</p> <p>1 ホームページを作成し、本学の概要(見学の理念をはじめ、教育の目的・内容・方法・施設・設備、スタッフ)の紹介を行う。教員に関しては、教育研究活動などの内容についての情報提供を行う。</p> <p>2 日本医療科学大学の「年次報告書」において、大学・学部の全般的活動、教員の教育実績評価、自己点検評価と課題などを開示する。</p> <p>3 紀要編集委員会を置き、学部教員の研究活動の成果を公表する。</p> <p>4 必要に応じて本学の新しい情報を報告するためのパンフレットを配布する。</p> <p>5 広報・入試課を通じて、埼玉県下及び近県の高等学校はもちろん、全国の高等学校の教員、生徒を対象として、出版物、もしくは学校訪問などによる広報活動を行うことにする。</p>	<p>○ホームページ(http://www.nims.ac.jp)に明示し情報提供を行っている。</p> <p>○「年次報告書」の作成を計画し、進めている。</p> <p>○紀要委員会を設置した。年度末の刊行を予定している。</p> <p>○全国の高等学校への学校訪問を通して広報活動を行っている。</p>

⑧教員の資質の維持向上の方策

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 実施体制</p> <p>学内に学長を委員長とするFD委員会を設置し、大学構成員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を目指し、各視点ごとに目標の達成の度合いを評価する。</p> <p>(1)教育指導能力の向上に関しては、教育内容、教育方法、教育効果の把握のためのFDを開催する。</p> <p>(2)研究能力の向上に関しては、教員の学会活動の奨励、研究成果の公表、専門書の刊行、優れた教科書、教材等の作成などを教員の研究能力向上の評価として奨励する。教員の研究活動を助成する。国及び民間が行っている研究助成への積極的参加を促す。</p>	<p>○FD委員会を設置した。FDに関して計画に沿って履行している。学生による各教員の授業アンケートを実施し、教育の改善に役立てている。また全教員による勉強会を専門の講師を招聘しFDに関する講演を計画している。</p> <p>○紀要委員会を設置し、3月末日、日本医療科学大学紀要の発行を計画的に進めている。</p>
<p>(b) 教員研修</p> <p>全教員参加による勉強会を専門の講師を招聘して年1回以上行う。</p> <p>分野別の関連教員について専門分野の教育指導能力向上のための勉強会を年1回以上行う。</p>	<p>○学会への参加、論文発表、専門書の刊行、教材の作成、などを行い、各教員が研究能力の向上につとめている</p> <p>○各分野別の関連教員についても専門分野の教育指導能力向上のための勉強会の実施に関して計画を進めている。</p>
<p>(c) 授業評価等の実施</p> <p>教員相互での授業参観を行い、教育内容・方法について参加教員からアンケートをとり、FD委員会がその資料を各教員ごとに集計し、授業を行った教員に改善すべき点などを通知する。</p> <p>通知を受けた教員は改善策を施し、FD委員会へ報告する。</p> <p>学生による各教員の授業に関するアンケートを行う。</p>	<p>○教育内容・方法などについての授業評価の実施について計画を進めている。</p> <p>○FDに関しては、学生による授業に関するアンケートを実施し検討した。</p>

⑨管理運営の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 組織体制</p> <p>管理運営組織</p> <p>理事長 新藤宣夫</p> <p>学長 佐藤泰正</p> <p>学部長 金子勝治</p> <p>診療放射線学科長 中谷儀一郎</p> <p>リハビリテーション学科長 柳沢 健</p>	<p>○管理運営組織</p> <p>理事長:新藤宣夫(平成18年12月)</p> <p>学長:佐藤泰正(平成19年4月)</p> <p>学部長:金子勝治(平成19年4月)</p> <p>診療放射線学科長:中谷儀一郎(平成19年4月)</p> <p>リハビリテーション学科長 柳沢 健(平成21年10月)</p> <p>()内は就任年月日。リハビリテーション学科長、柳沢健については就任予定。</p> <p>教育理念・目的により、各委員会を設置し、また委員会は学長、学部長、学科長、事務局長、及び教授会より選出された教職員若干名をもって構成し、推進している。</p>
<p>(b) 審議事項</p> <p>教授会の下に各種委員会を設置し、管理運営を行い審議事項を協議する。</p>	<p>○日本医療科学大学保健医療学部組織図に則り、下記委員会を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験委員会 ・教務委員会 ・学生委員会 ・図書委員会 ・研究委員会 ・紀要委員会 ・公開講座委員会 ・FD委員会 ・広報委員会 ・ハラスメント委員会 <p>これらの委員会については、それぞれ委員会の規定を設け、その規定に沿って協議を行っている。</p> <p>○以下の委員会については、大学の将来の発展に向けた改善・改革を履行できるようにするため、設置計画中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会 ・大学改善委員会 ・将来計画委員会 <p>日本医療科学大学保健医療学部組織図(添付資料⑬) 各種委員会規定(添付資料⑭)</p>

⑩その他

事 項	対 応 状 況
<p>○リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学定員超過率が1.3倍以上について</p>	<p>○入学試験に関し、初年度につき入試実績が無く入学者が想定していた者よりも多くなってしまった。</p> <p>○2007年度入試結果を教訓として合格者数を絞り込み、2007年度入学者数と2008年度入学者数をあわせて最大1.3倍未満とするように合格者数を検討する。また、入学者数が確定できるような選抜方法を導入するなどあわせて入学試験委員会で検討することにより、入学者が定員を超過しないようにする。</p> <p>○2007年度入学者に対しては、担任を2名配置する。また、5期校舎及び1期～4期校舎の教室を、時間・利用方法を定めて、課外活動や予習・復習などに利用し、学生に不利益とならないよう学習環境を整えるなどの対策を講じている。</p>

(2) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)

② 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定延期) 平成19年12月末までに予定

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」
掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)